

2012. **11.2** (金)

13:30~17:00

鹿児島大学稲盛会館 (鹿児島大学郡元キャンパス内)

参加費無料 事前申し込み不要 *直接会場へお越しください

鹿児島環境学国際シンポジウム 2012

奄美 世界遺産への道

世界自然遺産の専門家、
レスリー・F・モロイ氏が講演します!

独特の自然と文化が生きる奄美・琉球諸島。

世界自然遺産の最有力候補です。

各地域では生物多様性保全と新たな地域づくりに向けた取組が始まっています。

本シンポジウムでは、屋久島など日本の世界遺産登録に

多大な貢献をした国際的な専門家を招き、

奄美群島の持つ国際的な価値を確認します。

同時に、世界遺産に向けた課題への対応、世界遺産を活かした

地域づくりについて、地域、行政、大学が一緒に考えます。



主催：  鹿児島大学・  環境省・  鹿児島県

問い合わせ先 鹿児島大学研究国際部研究協力課 〒 890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24
TEL 099(285)3229 FAX 099(285)7037 E-mail kenkyo@kuas.kagoshima-u.ac.jp



レスリー・F・モロイ
Leslie F. Molloy

ニュージーランド自然保護省広報普及局長等をへて、退官後は民間コンサルタント顧問。現役時代からIUCN委員として自然遺産の申請物件の事前調査や、登録物件の保全状況調査等に従事。
国際自然保護連合（*IUCN）世界保護地域委員会（WCPA）会員、IUCN世界自然遺産技術的助言グループ会員、自然遺産コンサルタント：ヘリテージ・ワークス
年齢：（2012年現在）69歳
ニュージーランド・ウェリントン在住
学位：博士（土壌）

- 1993年 日本初の自然遺産、白神山地および屋久島に対する評価チームメンバーとして来日。1997年に両地域の保全状況モニタリングミッションのリーダーとして再訪
- 1996年10月 鹿児島における「世界遺産／人と生物圏」シンポジウムでIUCNを代表して基調講演
- 1998年10月 屋久島における「屋久島世界遺産シンポジウム」でIUCNを代表して基調講演
- 2002年 知床国立公園を視察。「海と陸のつながり」というキーワードを提示して2005年の世界遺産の登録に貢献
- 2006年 小笠原諸島を視察し、世界自然遺産としての価値や今後の課題等について助言。2011年の世界遺産登録時に、モロイ氏の招聘と指摘された課題への対応が高く評価された
- 2008年 奄美群島及び琉球諸島を視察、環境省に世界自然遺産としての価値や今後の課題等について助言

* IUCN（国際自然保護連合）：自然保護と天然資源の保全に関心を持つ各国の政府機関、NGOなどの関係者の協力連携を図ることを目的に、1948年に設立。スイスのグランに本部を置く。日本は国家会員であるほか、環境省（政府機関会員）と19のNGOが加盟。世界遺産委員会における自然遺産の諮問機関であり、その評価は世界遺産登録に大きな影響を持つ。

プログラム

- 13:30** ● 開会挨拶
吉田浩己（鹿児島大学学長）
環境省
- 13:40** ● 講演・報告
○ はじめに
「世界遺産とは」
岡野隆宏（鹿児島大学特任准教授、鹿児島環境学研究会）
○ 基調講演
「奄美群島の世界遺産の可能性と課題」
レスリー・F・モロイ
（国際自然保護連合（IUCN）世界保護地域委員会（WCPA）会員）
○ 報告
「世界遺産登録に向けた取組」
環境省
鹿児島県
鹿児島大学
NPO 法人 徳之島虹の会
- 15:30** ● パネルディスカッション
「奄美、世界遺産への道」
パネリスト
レスリー・F・モロイ（IUCN 世界保護地域委員会会員）
大久保明（奄美群島市町村長会会長）
久留ひろみ（奄美長寿食文化研究者）
米田健（鹿児島大学農学部教授）
服部正策（東京大学医科学研究所准教授）
小野寺浩（鹿児島大学客員教授、鹿児島環境学研究会）
植田明浩（環境省那覇自然環境事務所長）
コーディネーター
宮本句子（鹿児島大学理学部准教授、鹿児島環境学研究会）
● 閉会挨拶
金子万寿夫（鹿児島県議会議長）



鹿児島環境学国際シンポジウム 2012

奄美 世界遺産への道

関連行事
● 世界自然遺産シンポジウム in 那覇
2012年11月4日（日）14:00～17:00
沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室
主催：環境省、沖縄県、琉球大学